

四中だより

No. 7

令和2年（2020年）6月29日
枚方市立第四中学校
校長 鶴島 茂樹

負の歴史もしっかりと学ぼう！！

～過ちを二度と繰り返さないために～

* 先日の生徒集会で、最後に出題したクイズ：6月23日は何の日か？の答えは、「**沖縄慰霊の日**」。みんなも、おそらく社会科で、第2次大戦の末期にあった沖縄戦について、学んだことがあると思う。

太平洋戦争末期、「本土」の盾とされ、10代の少年少女まで駆り出され、凄惨な地上戦が展開された沖縄戦。日本人の死者は19万人近く、うち9万人以上が民間人だったという。集団自決もあった・・・今なおその悲しみは消えず、なおかつ基地問題に振り回されている沖縄。

みんなも機会あるごとに、「戦争」というこの国が犯した歴史の事実について、知っておいでもらいたいと思う。未来の社会を担う者として。

以下、新聞記事から抜粋してみた。（毎日新聞朝刊より）

<姉奪った集団自決>

「母さん、早く。私から早く締めて」。沖縄本島の西約40キロに浮かぶ慶留間島。中村武次郎さんの脳裏から、75年前のあの日の姉の声が消えることはない。1945年3月26日、島に米軍が上陸した。母ウタさんと姉清子さんと共に山中を逃げ回った末段々畑に掘った小さな壕の中で1本の縄を互いの首に巻き付けた。「引っ張りあったのか、それはわからん」。母と中村さんの間にいた姉だけが息絶えた・・・中略・・・日本軍の駐留で島の人々の暮らしは一変した・・・男性は特攻艇を隠す壕を掘る作業に駆り出され、女性は隊員の食事の準備や農作業に追われた。14歳だった中村さんも午前中は学校に、午後は軍の指示で兵舎の屋根に使う草木を運んだ。軍と日常的に接する中で島民が聞いたのが「米軍に捕まれば八つ裂きにされ、女は強姦されて殺される」という話だった。

・・・中村さんとウタさんはその後、米兵と通訳に促され、首に巻いた縄をほどいて壕を出た。殺されると覚悟したが、あめ玉とたばこを渡されただけだった。山を下ると、そこには「捕まると殺される」はずの大勢の住民が米軍に保護されていた・・・

・・・女性史研究家の宮城晴美さんは、「日本軍は米軍の捕虜となることへの恐怖心を植え付け、

逃げ場のない島で追いつめられる中で自決が起きた」と指摘する・・・「集団自決」による沖縄戦全体での死者は約1000人にもものぼるとされる。

<逃げても殺される>

「志願じゃなくて命令だよ。でも軍隊に行くのが本望だったから。僕も喜んだ」沖縄県東村の仲泊栄吉さんは振り返る。1945年3月、16歳だった仲泊さんが送り込まれたのは、「護郷隊」と呼ばれるゲリラ部隊だった。山中に潜み、侵攻する米軍をかく乱する役割を担った。「逃げてもいいよ」。集まった少年たちに部隊長はそう述べ、さらに続けた。「逃げてもこれだから」。部隊長が首を切る仕草をしたのを仲泊さんは再現して見せた。防衛省や県の資料によると、沖縄戦における米軍の総兵力は推計で54万8000人。対する日本軍は10万2000人。このうち約4分の1に当たる2万5000人は、圧倒的な戦力差を補うために防衛隊や学徒隊として集められた地元の住民たちだった・・・

仲泊さんらは10kgの爆薬を米軍の戦車が止まっている場所に仕掛ける作戦に当たった。直前に別れの杯が交わされ、自爆用の手投げ弾を持たされた。「殺されるより自分でやる（自爆する）のが名誉でした」。だが、作戦は米軍の戦車が動き出したために失敗に終わった。仲泊さんは負傷兵を担架で運び、亡くなれば次々に穴に埋める役目も担った。そうした中、歩けなくなった少年兵が軍医に射殺されるのを目撃した。「少年兵が青白い顔をして座らされてよ」。1発目の弾は当たらなかった。少年兵は掛けられた毛布から顔を出し、「ははは」と笑ったという。2発目は命中。

少年兵は動かなくなった。仲泊さんによると、少年兵は負傷で精神が不安定になっていたとみられる。「歩けないのは皆やった（殺害した）んじゃないか」。仲泊さんは続けた。「教育されれば、人を殺せるようになってしまう。それが戦争だ」・・・「根こそぎ動員」。多くの証言を聞き取ってきた沖縄戦に詳しい川満さんは強調する。「赤ちゃんからお年寄りまで、44年当初には約50数万の住民がいた沖縄で、日本軍は地上戦を展開し、住民を戦略に当てはめた。戦争になれば軍隊は国を守るため、国民を利用するのです。」

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

* 先生の父親も、生前、よく戦争の話をしていました。父は、中学3年生で終戦を迎えたので、戦地には行かなくて済んだのですが、学校では毎日、竹やりで人を突き殺す訓練をさせられたそうです。そして何と、「B29（爆撃機）が飛んで来たら、空に向かって突き出せ！さすれば、飛行機も落ちる！」と教えられたといいます。

終戦を迎え、恐ろしいと思われていたアメリカ人が実は同じ人間だったことを知り、ようやく目が覚めた思いだったそうです・・・